

生徒がいて、生徒の声がする一やっと学校らしくなってきた！

今週から分散登校が始まり、校内に生徒の声や笑い声が響くと「あ～、学校だ♡」と癒されます。来週からは本格的な学校再開、気を引き締めていきましょう。

第 35 号でグループ討論ができないので課題に電子版「伝々夢詩」掲載の他者の意見を読んだ感想を設定し、「LINE などで意見交流をすることを推奨します。」という添え書きをつけました。「意見を交換した」と書いているレポートもありましたが、級友と LINE を使ってつながり、生活や学習に取り組んできた生徒たちがいたので、少し詳しく様子を書いてもらいました。著者に了解を得て、以下にその一部を紹介します。

3人で話し合うことになった経緯は、毎日3人で電話をしながら勉強していたからです。

まず4月に長期の休校が決まった時点で、1人だと勉強が疎かになりやすいから3人で勉強しようということ、LINEに3人のグループをつくりました。

それ以来、学校と同じリズムになるよう、平日の9:00-12:00、昼休憩を挟んで13:00-16:00の間は電話をつなげて3人で勉強をしていました。そのため、教育学の意見交換をしようと声が上がったのは3人で通話していた時で、各々意見をチャットで送り合いました。因みに通話ではなくチャットにしたのは、スケジュールと期日の都合上から通話する時間が無いとなり、チャットで行いました。

あとは余談になるのですが、予定があって参加できない場合は事前に伝え、次の参加日時を連絡するようにしています。勉強内容については、3人とも違うことをしています。4月当初は同じだったのですが、通話時間外でも課題を進めるうちに各自内容が違っていきました。ですが、勉強で分からないことは質問し、お互い調べて教えあっています。また、勉強内容に国試によく出るものを見つけたら問題を出し、解説までしています。時には息抜きに雑談をしたり、カラオケをしたりと気分転換の場にもなっています。

私はこの文章を読んで感動しました。生徒たちの中には自分たちでつながり、励ましあっている生徒たちがいるのだということ、LINE を駆使していることです。カラオケのくだりは思わず笑ってしまいましたが、最近流行りの「オンライン飲み会」もこのような感じなのかなと思いました。

Zoomを使ったオンライン研究会、オンライン編集会議を体験しました

このところ自粛で研究会の例会や会議を行えない事態が続いています。そこでオンラインでの会合が企画され、私も参加しました。5月16日(土)にはフレネ教育研究会に午後2時間、28日(木)には全国地域民主教育交流研究会通信編集会議に夜1時間半参加しました。前者は約30人が関東を中心に、後者は北海道から鹿児島まで12人が参加しました。初めてのZoom体験で緊張し、HPの体験コーナーで音声チェックや画像チェックをしましたが、慣れてくればさほど難しくなかったです。ただ、チャットの仕方や音声と顔出ししないモードはアイコンの位置を知っていないと少し戸惑います。(妻は父母懇ブロック役員会をこれでしょうかというので、二人で家庭内オンラインの練習をしました。)

面白かったのは、ある参加者が発言すると背後から音楽などの雑音が入ります。「テレビくらい消してくれよ。」と思ったら「すみません、自宅にネット環境がないので喫茶店のWi-Fiを使って参加しています。発言するとき以外は音声をミュートにしますのでよろしく。」とのことでした。なるほど、そういう手もあるんだと感心しました。

後者の編集会議はホストが無料アカウントしか持っていなかったのが最長40分しばりの会議。前者の研究会はホストが大学の教育用アカウントを使ったのか、2時間連続で開会できました。

ささやかれている第2波にどのような対策をうちましょうか。